

## 淀川河川公園中流左岸域の概要

### 1. 中流左岸域(枚方市域)の概要

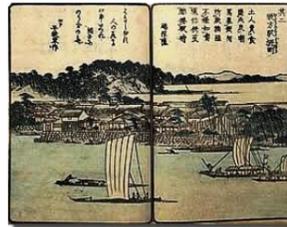
#### 1. 概要

- ・枚方地区、三矢地区、伊加賀野草地区、出口河畔地区、出口地区および出口野草地区の6地区が供用されている。

#### 2. 特性と課題

##### <歴史・文化>

- ・江戸時代に東海道の「枚方宿」は、淀川を行きかう客船・三十石船の中継港となるなど、京都と大阪を結ぶ舟運交通の要として栄えた。三十石船の乗客を相手に「餅くらわんか、酒くらわんか」と声をかけた商売舟は「くらわんか舟」と呼ばれ、枚方の名物になった。また、界限には本陣、旅籠、茶店が軒を連ね、大変な賑わいで、その様子は浮世絵にもなった。



淀川両岸一覽 枚方



河内名所図会 枚方驛

##### <生物>

- ・特徴的な植物にはハンゲショウやミコシガヤ、特徴的な鳥類にはムクドリやオオヨシキリ、特徴的な魚類にはカマツカ、コウライモロコなどが確認されている。
- ・楠葉地区にはワンド群が存在している。かつて干陸化が進んだため増水時にワンドが冠水するように再生事業に取り組んでいる。



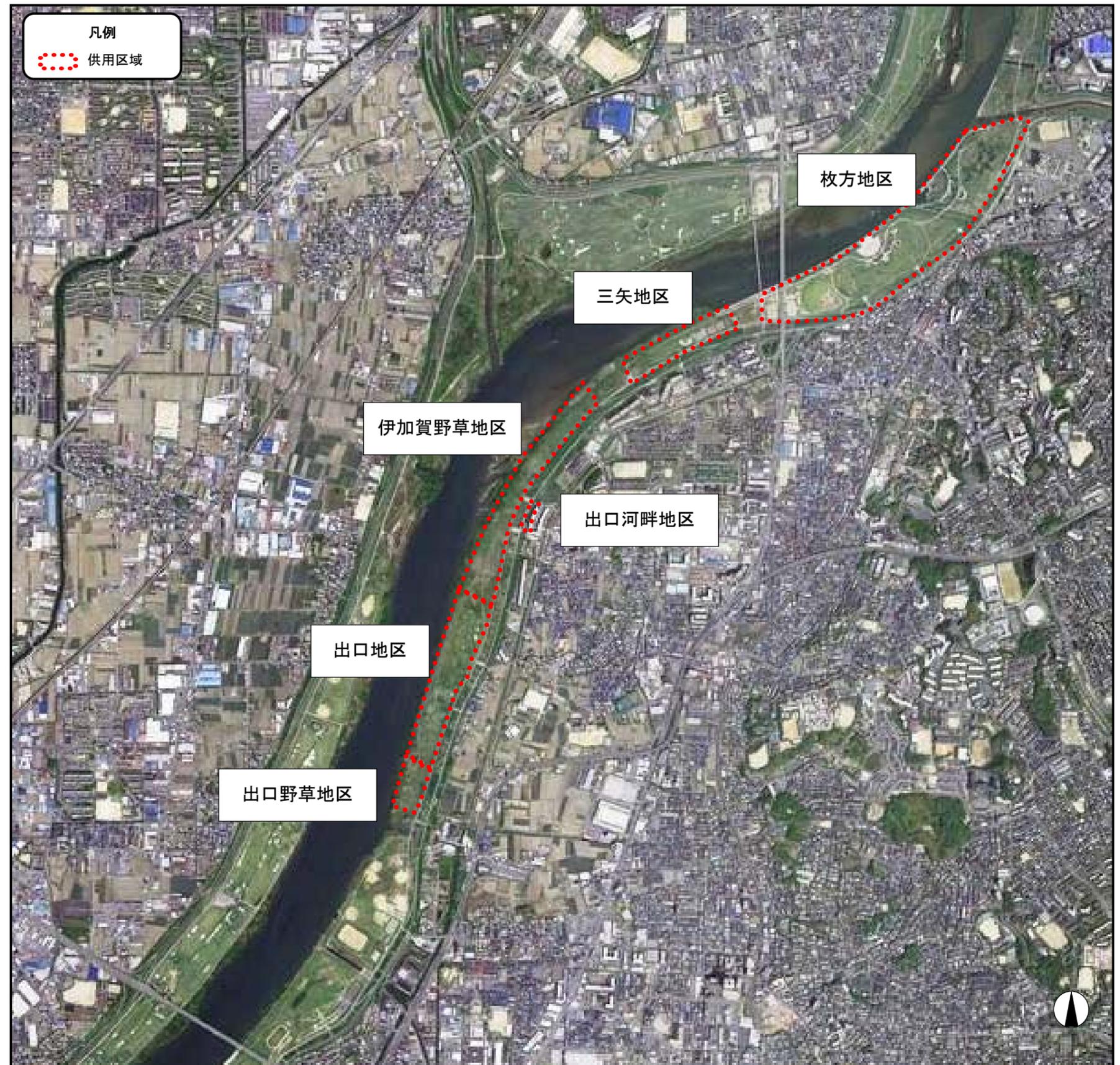
ムクドリ



カマツカ

##### <交通>

- ・枚方地区、三矢地区の2地区は、京阪枚方公園駅から徒歩によりアクセスできる。
- ・伊加賀野草地区、出口河畔地区、出口地区および出口野草地区の4地区は、近隣に鉄道駅がなく、駐車場も整備されていないため、上下流方向から堤防道路、緊急用河川敷道路を利用した徒歩または自転車でのアクセスが中心となる。



## 2. 中流左岸域（寝屋川市・守口市域）の概要

### 1. 概要

- ・木屋元地区、太間地区、点野野草地区、仁和寺野草地区、佐太西地区及び大日地区の6地区が供用されている。

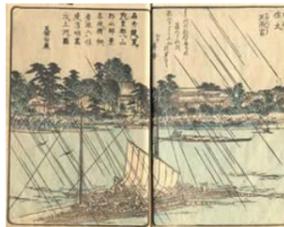
### 2. 特性と課題

#### <歴史・文化>

- ・淀川左岸のこの付近には、「日本書紀」の仁徳天皇 11 年に淀川に日本で最初の堤防といわれる「茨田堤」が築かれ、築堤に大変苦勞したことが記載されている。
- ・仁和寺の地名は京都仁和寺（にんなじ）の所領であったことに由来すると考えられている。淀川の兩岸を結ぶ「渡し」のうち、一番最後まで残っていたのが「仁和寺の渡し」であった。
- ・佐太西地区の付近には佐太天満宮がある。この地は菅原道真が太宰府へ流される途中しばらく舟を繋いだところとされている。



茨田堤の碑



佐太天満宮

#### <生物>

- ・河川公園の前面には原野性植物が残っているところがある。
- ・特徴的な植物にはオギやセイタカアワダチソウ、特徴的な鳥類にはカワラヒワやユリカモメ、特徴的な魚類にはオイカワ、ハスなどが確認されている。



カワラヒワ



ハス

#### <交通>

- ・木屋元地区から大日地区は付近を国道1号が走っており、路線バスのバス停から徒歩でアクセスできる。
- ・自動車によるアクセスは、木屋元地区から点野野草地区は太間地区の駐車場、仁和寺野草地区から大日地区は仁和寺野草地区付近から堤防上を走行して各地区の駐車場を利用する。

